

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24243041

研究課題名(和文)「大収縮」と地域統合レジーム：試される政治経済システム

研究課題名(英文)"The Great Retrenchment" and Regimes of Regional Integration: Testing Political Economic Systems

研究代表者

高阪 章 (KOHSAKA, Akira)

関西学院大学・国際学部・教授

研究者番号：00205329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,900,000円

研究成果の概要(和文)：グローバル金融危機後の資本フローの「大収縮」によって、欧州とは異なる東アジアの「地域統合レジーム」の発展ダイナミズムが顕在化してきた。まず、マクロ金融面では、欧州が財政連邦主義を欠く共通通貨システムの構造的脆弱性を露呈したのに対して、そこから自由な東アジアは、国際資本フローのボラティリティに対して為替・金融安定を重視するマクロ金融レジームを構築するのに成功した。次に、実物面の貿易・投資では、東アジアでは賃金上昇という内生的ダイナミズムが産業配置を変えつつあるが、技術革新と貿易政策によるリンク・コストの低下を通じて、この両地域間のバリューチェーンを通じたリンケージが深まりつつある。

研究成果の概要(英文)：The Great Retrenchment of capital flows after the global financial crisis revealed the development dynamism of East Asian regime of regional integration as compared to European counterpart. First, as to macro-financial aspects, while Europe exposed the structural vulnerability of a common currency system without fiscal federalism, East Asia, free from common currency and based on the experience of the Asian financial crisis, has successfully established macro-financial policy regimes, which is exchange rate and financial stability oriented as against the volatility of international capital flows. Second, as to the real aspect of trade and investment, while the endogenous dynamism of trend wage growth is transforming industrial location in East Asia, the value-chain linkage of these two regions interestingly started to deepen through declining link cost due to technological innovation and trade policy as well.

研究分野：社会科学(経済学)

 キーワード：地域統合レジーム 国際資本フロー グローバル金融危機 東アジア 欧州 マクロ金融リンケージ
産業配置 バリューチェーン

1. 研究開始当初の背景

- (1) 2008 年秋のリーマン破綻を契機に、国際金融フローは戦後初めての「大収縮」を経験し、グローバル金融危機はグローバルな（景気）「大後退」に発展した。新興市場では欧州が先進国不況の影響を大きく受けており、比較的堅調な東アジアとは対照的である。
- (2) 本研究では、これらの違いは、今回の危機のインパクトの差だけではなく、それ以前からの両地域の「地域統合レジーム」の差異と密接な関係があるのではないかと考える。同レジームの差は、統合の動機から始まって、発展段階や政治経済システムの歴史など、多岐にわたるが、なかでも低成長地域の再生をめざした政治主導型の欧州統合と高成長地域で各国が競い合う民間企業主導型の東アジア統合とで統合のパターンやダイナミズムが違うのは当然かもしれない。
- (3) 安全ネットの柱と見なされてきた通貨統合がここに来て、金融部門救済で悪化した財政不安の影響で揺らいでいる。かつて地域統合の青写真と見なされた欧州の危機的状況から東アジアは何を学ぶべきか。アジア危機から 10 年後のグローバル危機は地域統合のあり方を再検討するにあたって実に貴重な「社会実験」となっている。

2. 研究の目的

- (1) そこで本研究では、危機の長期化・深刻化によって顕在化してきた、欧州とは異なる東アジアの「地域統合レジーム」に基づく発展ダイナミズムと中長期的な変化の方向を金融面（マクロ金融統合）と実物面（貿易統合）から明らかにする。
- (2) まず、金融統合については、マクロ経済調整の政策枠組みを政治経済システムとの関わりの中で再検討する [課題 1-1]。欧州の経験は、生産性成長の域内格差が根強い限り、財政連邦主義を欠く現行の政治経済システムの下でマクロ経済規律を維持することの困難を示している。ここではとくに欧州共通通貨制度の動揺に鑑みて、東アジアにおける短期のマクロ経済調整のあり方を再検討する。
- (3) 他方、東アジアでは、アジア危機以後、投資率の低迷と投資ファイナンスの内部市場化が進んでいるが、それは資本市場の機能不全への適応プロセスとも見なせる。欧米最終需要から域内需要へのリバランスを図るために、現行の投資ファイナンス構造は中長期的にこれを支えるに足るものなのかどうかを検証する [課題 1-2]。
- (4) 次に、貿易統合については、上記ファイナンス構造に加えて、危機後の域内高成長分布の変化が生産ネットワークと各国産業発展に与える影響を明らかにしたい [課題 2-1]。大収縮後、中国における労働市場の逼迫、東南アジア後発国（「CLMV」）の台頭等、危機とは独立の構造変化要因とともに産業立

地にどのような影響を与えるのかを検証する。

- (5) 他方、危機の長期化・深刻化によって安全ネットとリバランスによる新たな潜在成長機会を求め、TPP など貿易投資統合化への動きは加速化するものと思われる。しかしながら、このような貿易統合の加速化は各国の産業政策とのトレードオフ関係を顕在化する可能性もあり、ここでも政治経済システムとの相互作用の検証が不可欠である [課題 2-2]。

3. 研究の方法

- (1) 本研究では、「大収縮」によって顕在化した地域統合レジームの差異に留意しつつ、危機後の地域統合化の動向を明らかにするため、EU と東アジアの知見を有機的に連携させる。各研究者は専門分野によって「金融統合」および「貿易統合」の二つのユニットに分けられるが、二つの統合プロセスは相互依存関係にあることから、つねに研究会・ワークショップなどを通じて研究成果を共有することによって互いから情報と刺激を得て研究深化を図る。
- (2) 各研究者は、これまでの研究交流をベースに海外研究協力者の協力を得て各人の課題を追求する。協力者との間で厳密な意味で共同研究を行うわけではないが、複数課題について頻繁かつ機動的に海外および国内で国際ワークショップをもつことによって、互いの知見を交換し、EU の知見を東アジア研究に生かす。
- (3) 研究分担者は各々の東アジア・EU に関する研究実績をベースに、研究協力者の協力を得て、初年度は、グローバル金融危機前後までの東アジアと EU の地域統合化パターンの相違に関するわれわれの新たな知見を共有し、共同研究の方向を確立するとともに、危機後の展開プロセスに関する EU との比較の視座について検討を加える。各ユニットの課題は、各々、前掲「研究目的」の [課題 1-1] [課題 1-2] および [課題 2-1] [課題 2-2] であり、それらは基本的に同時並行的に推進するが、初年度は [課題 1-1] および [課題 2-1] に重点をおく。
- (4) 以上の作業のため、海外調査については、東アジア、EU、米国を対象に訪問調査を行い、また、海外研究協力者とワークショップを開催する。国内では、定期的に研究会を開催するとともに、内外の関連研究者からのヒヤリングを行う。また、さらに年度末にかけて、上記方針に従って、海外研究協力者の協力の下に海外において 1 ~ 2 日間の国際ワークショップを実施する。これらの成果は随時、ワーキングペーパー・論文にまとめ、各種研究会・会議・学会・講演会・シンポジウム等で積極的に報告するほか、新聞・一般誌・メディアなどでも積極的に発信を行う。

4. 研究成果

(1) 本研究は東アジアを主対象とし、グローバル金融危機後の「大収縮」によって顕在化してきた、欧州とは異なる「地域統合レジーム」に基づく発展ダイナミズムを明らかにする。具体的には、マクロ金融面で、政治主導の欧州、経済主導の東アジアという統合パターンとの差がマクロ経済調整の枠組みにもたらす効果、および、実物面で、多国籍企業によるバリューチェーンが形成してきた地理的産業分布の違いが危機後の産業発展パターンにもたらす影響、を分析した。

(2) 前者のマクロ金融面では、欧州の経験は生産性成長の域内格差が根強い限り、財政連邦主義を欠く共通通貨システムは構造的脆弱性を抱えていることは認識されてきた。他方、東アジアは同システムから自由であり、またアジア危機の経験を生かしてグローバル資本フローのポラリティから独立性を維持することで大収縮から一步距離を置くことのできた唯一の地域となった (Kohsaka, 2015)。

(3) 1980年代以降の景気循環は、先進国・途上国を問わず、内外の金融要因に基づくものがほとんどだ。これらの「金融循環」には、金融深化(金融資産の蓄積と分散)、および金融グローバル化(対外債権債務蓄積)の拡大が深く関わっている。「ポラティル(変動的)」な国際資本フローと為替リスクは長期成長経路に重大な影響を与えかねない。

実際、アジア金融危機で成長軌道を外れた東アジア4カ国における金融要因の景気循環に対するインパクトはアジア危機時とグローバル危機時で圧倒的に前者が大きかったことが金融市場インデックスを用いた実証研究で明らかにされている (Kohsaka and Shinkai, 2014)。

(4) 1997年のアジア金融危機では、外国資本フローの急停止(sudden stop)および逆流によって東アジア新興国は厳しい経済停滞を経験した。対照的に、2008年のグローバル金融危機では外資逆流の程度は小さく、資本の急停止とその後の長期経済停滞に悩む先進国を尻目に、きわめて短期間に景気回復を遂げている。

この差はどこから来たのか、またこの「レジリエンス(復元力)」をもたらしたものは何なのか。本研究では、東アジア新興国に焦点をしばり、他の新興市場地域との比較において、その国際資本市場へのマクロ金融リンクと国内金融システムの展開とのダイナミックな相互依存関係におけるマクロ経済政策運営を分析した。そして、この考察から、2つの危機の間に「東アジア型マクロ経済運営モデル」と言うべき政策レジームが醸成されてきたことを示した(高阪、2015)。

(5) 現在までのところ、東アジア新興市場のマクロ経済の成果は他地域の新興市場を凌駕してきた。相対的な低インフレ、高成長、為替安定と経常収支黒字が達成されてきた

し、財政収支も相対的に健全であり、金利も十分プラスを維持してきた。この地域の非コナー解の金融政策レジームが、失敗であったと論じることは難しい。

政策運営に関して、太平洋新興国の経験から重要な教訓は、伸縮的であるより、安定的な為替レート、自由な資本移動より適切に管理された資本フロー、情報の不完全性に鑑みて、海外貯蓄より国内貯蓄が重要であることがわかる。控えめに言って、これらの非オソドックスな政策ミックスは、むしろ、金融グローバル化の下での新興市場の金融政策レジームを追求する上で十分に検討に値するものだ(以上、高阪、2015)。

(6) アジア危機以来、東アジア新興国は公式にはインフレ・ターゲットを採用、伸縮的為替レートで資本勘定を自由化し、プルーデンス規制を強化した。けれども、現実には、為替安定を図り、外為市場に介入、他方で、多様な意図的なプルーデンス手段で資本フローをコントロールしてきた。政策目標は金融自律性の下での安定と成長であり、そのためには完全な金融開放は実際的な中間目標たり得ない。そして、彼らは正しかった。新興市場は急速にグローバル危機から回復した。さらに、新興国はますますポラティルになった国際金融フローに対してもこれまでのところ、レジリエントに見える。

東アジア新興国は、ポラティルな外国資本フローの破壊的な力に適切に対処してきた。外為市場介入と資本規制が、追加的政策手段であった。海外貯蓄への依存度を最小化し、ポラティリティの小さい資本フローへと多様化を図った。驚くべきことに、民間部門もまた同じことを内部金融化で達成した。国内金融システムは先進国ほどではないが、他の途上国よりは深い。このような「東アジア型マクロ経済運営モデル」が、1997年の危機に比べて、「今度は違う」(Reinhart and Rogoff 2009の書名)と言えるレジリエンスとパフォーマンスを生み出したものといえよう(以上、高阪、2015)。

(7) 実際、東アジアの企業金融構造を各工業化パターンに即して分析すると、アジア危機後に東アジアの過剰債務が危機の原因とする通説は同地域の企業金融構造の全体像やそれを形成してきた歴史を十分理解しないままの推論であったことが示されている(三重野、2015)。この結果は一般的な企業の資金調達行動に関する各国研究と整合的であり、歴史的経路とも合致する結果である。

(8) 他方で、実物面の貿易・投資については、欧州と東アジアの明暗が両者の地域的産業配置変化に色濃く反映されることになりそうだ。東アジアでは成長による賃金上昇が産業配置を変えつつある。欧州の停滞は産業配置にもみられるが、東アジアでは賃金上昇という内生的ダイナミズムに最近の中国の停滞という外生的なショックがともにバリューチェーンを通じて域内中間財貿易フロー

の変化という形をとりつつある。

製造業における、バリューチェーンとよばれる広域的亜国際分業はますますグローバルな存在になりつつある。北米、欧州、東アジアの広域 VC は技術的かつ政策的要因によるリンク/コストの低下とともに欧州と東アジアのリンケージという形をとりつつあることが明らかになった。

チェコ、ハンガリーなど中東欧諸国は EU 加盟を果たして後、東アジアとのリンケージを深めつつあるからだ。EU 加盟の効果は最終組み立て工程の西欧からのシフトという形で顕在化した（機会部品など）。それはもはや生産工程だけではなく、卸/小売りを含めた VC そのものだ。最終製品とは異なり、中間財貿易では時間コストとロジスティック/リンクの信頼性が金融コスト以上に重要になってくる。

本研究では細分類された貿易データを用いて国際生産ネットワークの拡大プロセスを検証した。欧州の生産ネットワーク拡大は中東欧諸国を通じて東アジアからの機械輸入と密接にリンクしていることが明らかになった。つまり、それは西欧との二国間貿易から、中東欧の EU 加盟を経て、東アジアとのリンケージというように、より広域的、グローバルに変貌しつつある。

この動きは、サービスリンクコストの低下、EU 加盟後の中東欧の産業集積、そして東アジアのパワフルな（機械産業など）生産ネットワークなしには考えられない。また、産業間で差違はあっても、このグローバル化トレンドは今後一層強まるものと思われる。生産分業と産業集積を支える鍵を握るのはサービスリンクコストの低下だ。欧州 VC の発展プロセスから明らかなのは、関税/非関税措置、貿易投資円滑化など、自由貿易協定のネットワーク化の役割の大きさに（以上、Kimura, 2014）。

(9) 加えて、生産ネットワーク、VC の拡大は貿易データのとらえ方を変えつつある。通常の輸出輸入額では国際生産の規模や変化は捉えられないため付加価値貿易の推計も盛んに行われるようになった。そこで重要な役割を果たすのが国際産業連関表（IO）だ。国際 IO 表を用いて VC の拡大や変化、産業別の競争力の変化を探るのが本研究の成果のひとつだ（Sato, 2015）。

以上の成果は、初年度、ライプチヒ大学、2 年度、ハンガリー社会科学院、3 年度マドリッド大学との国際ワークショップで討議され、最終年度のマドリッド大学との東京セミナーなど、一連の国際共同研究を通じて、研究分担者は各々の東アジア・EU に関する研究実績をベースに、グローバル金融危機以降の東アジアと EU の地域統合化パターンの比較ダイナミズムに関するわれわれの新たな知見を共有し、深化することができた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 51 件)

Ando, Mitsuyo and Kimura, Fukunari, “Globalization and Domestic Operations: Applying the JC/JD Method to Japanese Manufacturing Firms” *Asian Economic Papers*, Vol. 14, No. 2, 2015 pp.1-35(査読有), DOI:10.1162/ASEP_a_00342

Sato, Kiyotaka and Robert Stehrer, “New Industry-level Analysis on Value Chains and Competitiveness in Asia and Europe: Introduction,” *Asian Economic Journal*, 29(2), 2015, pp.93-97. (査読有), DOI: 10.1111/asej.12055

Akira Kohsaka and Jun-ichi Shinkai, “East Asian Financial Cycles: Asian vs. Global Financial Crises,” OSIPP Discussion Paper, DP-2014-E-008, Osaka University, November, 2014. pp.1-21(査読無)

Junichi-Shinkai and Masahiro Enya, “The Impact of Capital Inflows on Asset Prices in East Asia,” Discussion Paper Series, Faculty of Economics and Management, Institute of Human and Social Sciences, No 22, March 2014, pp.1-34(査読無)

Ando, Mitsuyo and Kimura, Fukunari, “Production Linkage of Asia and Europe via Central and Eastern Europe”, *Journal of Economic Integration*, 28(2), 2013, pp.204-240(査読有),

Sato, Kiyotaka, Junko Shimizu, Nagendra Shrestha and Shajuan Zhang, “Industry-specific Real Effective Exchange Rates and Export Price Competitiveness: The Case of Japan, China and Korea,” *Asian Economic Policy Review*, 8(2), 2013, pp.298-321(査読有), DOI: 10.1111/aepr.12032.

Ando, Mitsuyo and Kimura, Fukunari, “Expanding Fragmentation of Production in East Asia and Domestic”, *Journal of International Commerce, Economics and Policy*, 4(1), pp.1-43, 2013(査読有),

Sato, Kiyotaka, Junko Shimizu, Nagendra Shrestha and Zhaoyong Zhang, “New Estimates of the Equilibrium Exchange Rate: The Case for the Chinese Renminbi,” *The World Economy*, 35(4), 2012, pp.419-443,(査読有) (DOI: 10.1111/j.1467-9701.2012.01444.x),

Masakazu Hojo and Takashi Oshio, "What factors determines student performance in East Asia? New evidence from TIMSS 2007", Asian Economic Journal, 26(4), 2012, pp.333-357 (査読有), DOI: 10.2753/JES1097-203X390301

Masakazu Hojo, "Shared Literacy and Employment in the Non-farm Sector", Applied Economics, 44(10), 2012, pp. 1209-1217, (査読有), DOI:10.1080/00036846.2010.539538

〔学会発表〕(計 91 件)

Hoang, Le Thu Huong and Kiyotaka Sato, "Exchange Rate Pass-Through in Production Chains: Application of Input-Output Analysis," EEA-ESEM 2016, European Economic Association and European Meeting of Econometric Society, Geneva(Switzerland), August 22-26, 2016.

Misa Okabe, The Dynamics of Comparative Advantage of Latecomer Members under Regional Economic Integration: A Comparison of ASEAN and EU, International Atlantic Economic Society, Lisbon(Portugal), March 17, 2016

(招待講演) Eiji Ogawa, Regional Monetary Cooperation for Regional Currency Stability, China-Japan-Korea Trilateral Seminar, Seoul(Korea), December 3, 2015

木村福成「国際的生産ネットワーク：経済学の政策論への貢献」日本国際経済学会第74回全国大会、第10回小嶋清賞研究奨励賞・受賞記念講演、2015年11月7日 専修大学(神奈川県川崎市)

Akira Kohsaka, "East Asian Financial Cycles: Asian vs. Global Financial Crises," 14th International Convention of the East Asian Economic Association, Bangkok (Thailand), November 2, 2014

Ong, Sheue Li and Kiyotaka Sato, "Regional Shock or Global Shock? A Global VAR Analysis on Economic and Monetary Integration in Asia," 14th International Convention of the East Asian Economic Association, Bangkok (Thailand), November 1, 2014

Misa Okabe, Regional Trade Agreements and the Location of Foreign Direct Investment, 14th International Convention of the East Asian Economic Association, Bangkok(Thailand), November 1, 2014

Kimiko Sugimoto and Masahiro Enya, Global Liquidity and Drivers of Capital Flows to Emerging Economies, 14th International Convention of the East Asian Economic Association, Bangkok(Thailand), November 1, 2014

(招待講演) Akira Kohsaka, "Monetary Policy Regimes in East Asia," Invited Sessions 1: Supply Chains and Economic Integration in Asia, 17th World Congress, International Economic Association (IEA), Dead Sea(Jordan), June 6, 2014

(招待講演) Kimura, Fukunari, "International Production Networks and a New Development Strategy in East Asia" 17th World Congress, International Economic Association (IEA), Dead Sea(Jordan), June 6, 2014

(招待講演) 木村福成、「生産ネットワークから見た東アジアと欧州」、太平洋経済展望(PEO)日本委員会、公益社団法人日本経済研究センター、PEOセミナー「アジアの統合力学-欧州に学ぶ経済安定と産業集積」2014年2月4日、日本経済新聞社東京本社ビル(東京都千代田区)

(招待講演) Akira Kohsaka, "Monetary Policy Regimes in the Pacific Region," paper presented at the Singapore Economic Review Conference 2013, August 6, 2013, Singapore

Sato, Kiyotaka and Nagendra Shrestha, "Global and Regional Shock Transmission: New Evidence from Globally Integrated Input-Output Table," 13th International Convention of the East Asian Economic Association, 19 October 2012, Singapore.

Mamoru Nagano, "Similarities and Differences among Cross-border M&A and Greenfield FDI Determinants: Evidence from Asia and Oceania", 13th International Convention of the East Asian Economic Association, 19 October 2012, Singapore.

Misa Okabe, "Estimating Non-Tariff Measures on Trade in Goods among ASEAN Countries", 13th International Convention of the East Asian Economic Association, October 19, 2012, Singapore

高阪章、「東アジア型金融リンケージ・モデル」はあだ花か、アジア政経学会2012年度全国大会、2012年10月15日、関西学院大学(兵庫県西宮市)

Fumiharu Mieno, "Toward Myanmar's New Stage of Development: Transition from Military Rule to the Market", Asian Economic Policy Review (AEPR) editorial meeting for No.1 Vol 8, 日本経済研究センター (東京都千代田区) 2012年9月15日

Sato, Kiyotaka and Nagendra Shrestha "Global and Regional Shock Transmission: New Evidence from Globally Integrated Input-Output Table", International Conference of the Association of Korean Economics Studies on Korea and the World Economy, XI, 13-14 July 2012, Seoul(Korea)

〔図書〕(計 22 件)

Akira Kohsaka, ed., Macro-Financial Linkages in the Pacific Region, Routledge, 2015, 296pages(pp. 1-284)

高阪章、「国際金融-国際金融 - 「東アジア型マクロ経済運営モデル」と日本の役割」、黒崎卓・大塚啓二郎編『これからの日本の国際協力 - ビッグドナーからスマートドナーへ』、日本評論社、2015年、341頁(261-292頁)

小川英治、「ユーロ圏危機と世界経済 信認回復のための方策とアジアへの影響」、小川英治編著『ユーロ圏危機と世界経済 信認回復のための方策とアジアへの影響』東京大学出版会、2015年、250頁(1-22頁)

三重野文晴、『金融システム改革と東南アジア：長期趨勢と企業金融の実証分析』勁草書房、2015年、252頁

Sahoko Kaji and Eiji Ogawa, Who Will Provide the Next Financial Model? Asia's Financial Muscle and Europe's Financial Maturity, Springer, 2013, 291pages

高阪章「東アジア新興市場のマクロ金融リンクageと金融深化」、国宗浩三編『グローバル金融危機と途上国経済の政策対応』、アジア経済研究所、2013年、303頁(31-60頁)

三重野文晴、猪口真大、「2000年代ASEAN4カ国の金融環境とグローバル金融危機」、国宗浩三編『グローバル金融危機と途上国経済の政策対応』、アジア経済研究所、2013年、303頁(61-86頁)

6. 研究組織 (1) 研究代表者

高阪 章 (KOHSAKA, Akira)
関西学院大学・国際学部・教授
研究者番号：00205329

(2) 研究分担者

阿部 茂行 (ABE, Shigeyuki)
同志社大学・政策学部・教授
研究者番号：60140076

小川 英治 (OGAWA, Eiji)
一橋大学・大学院商学研究科・教授
研究者番号：80185503

木村 福成 (KIMURA, Fukunari)
慶応義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：90265918

深川 由起子 (FUKAGAWA, Yukiko)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：30306485

佐藤 清隆 (SATO, Kiyotaka)
横浜国立大学・大学院国際社会科学研究所・教授
研究者番号：30311319

三重野 文晴 (MIENO, Fumiharu)
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号：40272786

大槻 恒裕 (OTSUKI, Tsunehiro)
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授
研究者番号：40397663

永野 護 (NAGANO, Mamoru)
成蹊大学・経済学部・教授
研究者番号：20508858

塩谷 雅弘 (ENYA, Masahiro)
金沢大学・経済学経営学系・准教授
研究者番号：70340867

岡部 美砂 (OKABE, Misa)
和歌山大学・経済学部・准教授
研究者番号：20434649

北條 雅一 (HOJO, Masakazu)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：30362601

志甫 啓 (SHIHO, Kei)
関西学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：90452721